

発行元  
東京新聞  
南千住東口専売所  
5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
090-2657-0300

# すまいるたうん



第274号  
平成26年  
1月13日

はい！東京新聞です  
取材現場のつぶやき



二〇一三年の最後の夕刊は、十二月二十八日の土曜に皆さまにお届けしました。この夕刊に、私が書いた記事が社会面のトップで掲載されました。「両親救った奇跡に感謝」という見出しの記事です。記事の主旨は、カナダで数学を教えている大学教授。この方のご両親はポーランドに住んでいたユダヤ人です。

第二次世界大戦中、この方のご両親は、ユダヤ人迫害を行ったナチスドイツから逃げるため、隣国リトアニアに逃れ、その日本領事館で、日本の外交官からビザを発給してもらい、日本に逃れることができたのです。その外交官こそ、多くのユダヤ難民を救った「命のビザ」で知られている、杉原千畝（ちうね）さん。そのビザで命を救われた数多くのユダヤ人のうちの二人が、この人のご両親だったのです。この大学教授が来日して、ご両親ゆかりの地のひとつ、横浜を訪れた際に、私が取材しました。

私は、これまでも杉原千畝さんについての記事を、折に触れ、書いています。最初の取材が一九九四年でした。長く取材をする中で、さまざまなたたご縁があり、この教授の来日につ

いても取材することができました。

以前には、杉原さんに関する長期の連載記事を、私を含む取材班で書いたこともありました。この連載は、のちに本にもなっています。「自由への逃走 杉原ビザとユダヤ人」という題名です。古い本なので書店にはないと思いますが、荒川区役所の近くの荒川図書館には一冊、置いていただいているようです。もし機会があれば、読んでみて下さい。

さて、二〇一三年の暮れには、ご存じの通り、猪瀬直樹氏が就任からわずか一年で東京都知事を辞職するという、前代未聞の事態が起きました。

猪瀬氏が徳洲会グループから五千万円の資金提供を受けていたことは、大きな問題です。選挙で選ばれる政治家が、その選挙の直前に、都知事の職務権限と関係する組織の人から、巨額のお金を受け取ったのですから。政治家は、もらうにせよ借りるにせよ、お金を受け取ることは極めて慎重にしなければならぬと思います。

この原稿を書いている時点で、どのような立候補者の顔ぶれで都知事選が行われるのか、構図は見えていません。都知事の権力は非常に大きく、その責任は重大です。都民のみなさんの暮らしはもちろん、首都のトップですから、日本全体の将来も左右する、そんな重要な人を、都民のみなさんが選ぶ。とても大事な選

挙です。慎重に考えて一票を投じていた

都知事選の取材には、都庁担当はじめ、たくさんの記者が取り組んでいます。ニューズデスクの私も、日々のデスクとしての取材指示や原稿チェックのほか、投票日に向けた事務的な準備も進めています。忙しい年明けです。好きな落語に行く機会も、少し減りそうです。実は二〇一三年の暮れに、三遊亭鳳楽さんの落語を聞きに行くつもりでいたのですが、仕事で行けませんでした。

たくさんいい記事を書いて、書かせて、たくさん笑える一年にしたいと思います。

最後に、私事で恐縮ですが、小学生時代から続けていた剣道の稽古を、二十数年ぶりに再開しました。二十歳で三段になりましたが、大学卒業後はほとんど稽古をしていませんでした。再開してみ、運動不足の五十代の身にきついですが、面を付けて竹刀を構えて気持ち引き締まる、その心地よさを味わいたくて、週一回くらいは時間をつくって道場に通っています。四段に昇段できるよう、精進したいと思います。

末筆ながら、みなさまが本年、ご健康で幸多きことをお祈り申し上げます。あらためまして、「ご愛読いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

（東京新聞 社会部 部次長

「前・したまち支局長」 榎本哲也